巻頭言

# 旭川医療センター雑誌　第２巻の発行にあたって

院長　西　村　英　夫

昨年に引き続き、旭川医療センター雑誌の第２巻が発行されることになりました。前任の院長の箭原先生、臨床研究部 鈴木先生と村上さんのご尽力で創刊号が出されて、早１年になろうとしています。最近は、外来棟の建物整備や、医師、病院スタッフの増員にて病院の規模拡大がなされています。しかし、建物･人員の配置だけではなく、学術的には当院も自前の雑誌を持つことによってようやく、一人前の病院になったような気がいたします。

院内での発表や、国内学会、研究会、海外学会での発表はよくおこなわれていますが、それを論文化するとなると、また、別の意味での努力が必要です。口頭で発表して終わりではなく、未来永劫に残る形にするのですから、責任重大です。引用論文から何から、将来的な批判に耐えうるレベルのものが必要です。丹念に丹念に検討、推敲ののちに論文は出来上がります。しかしながら、大変ではありますが論文化することにより改めて深い考察と論証を行うことになり、より将来の当院を担う人材への刺激になるものと考えます。更には院内での研究レベル、臨床レベルの向上に資するものかと考えます。もちろん当雑誌はISSN（国際標準逐次刊行物番号）2188-9899を取得しており、掲載論文は医学中央雑誌でも検索可能です。院内だけではなく、国内・海外への発信が可能な媒体なわけです。そういうこともあり、ぜひとも院内、および院外の医師、看護師、コメデイカル、事務の皆さんの積極的な投稿を望みます。また最後に、今回の雑誌を発行するにあたり、臨床研究部の方々の一方ならぬ努力に敬意を表するものであります。

今後、当病院と共に末永く、雑誌の歴史が続きますことを祈念いたします。